子ども健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル：

Impact of longer working hours on fathers' parenting behavior when their infants are 6 months old: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル：

父親の長時間労働と育児行動との関連：エコチル調査

ユニットセンター（UC）等名： 富山ユニットセンター

サブユニットセンター（SUC）名：

発表雑誌名： Frontiers in Public Health

年： 2023 DOI： 10.3389/fpubh.2023.1100923

筆頭著者名： 笠松 春花

所属 UC 名： 富山ユニットセンター

目的：

父親が育児に関わることで母子の健康にもポジティブな効果をもたらすことが示唆されてきた。長時間労働は、父親の育児行動の頻度に影響を与えると考えられるが、先行研究では、一貫した結果が得られていない。そこで、本研究では、エコチル調査において、両者の関連を明らかにすることを目的とした。

方法：

43,159 組の両親を分析対象とした。子の生後 6 か月時における父親の 7 種類の育児行動(「中遊び」「外遊び」「食事介助」「おむつ替え」「着替え」「入浴」「寝かしつけ」)の頻度を活発群（「いつもする」「時々する」）と不活発群(「ほとんどしない」「まったくしない」)に分類した。父親の週当たりの労働時間(範囲：0～168 時間)は 6 群に分類し、父親の育児行動を目的変数とした多変量ロジスティック回帰分析を行った。

結果：

多変量ロジスティック回帰分析の結果、父親の週当たりの労働時間と父親の育児行動の頻度は、育児行動 7 項目すべてにおいて、逆相関の関連を示した。父親の週当たりの労働時間が 0-40 時間のグループと比較し、65 時間より多いグループでは、特に顕著にこの関連が認められた(調整済みオッズ比[95%信頼区間]：「中遊び」, 2.38 [2.08-2.72]; 「おむつ替え」, 2.04[1.89-2.20]; 「入浴」, 2.01[1.84-2.18])。

考察（研究の限界を含める）：

これまでの日本国外の研究では、長時間労働とされる区分が日本と比較すると短く、労働時間が広範囲かつ均等な分布でなかったため、一貫した結果が得られていなかったという可能性が考えられる。本研究では、日本国外の先行研究よりも、参加者の労働時間が広範囲に分布しており、労働時間と育児行動の頻度の間に負の関連を示した。本研究の限界としては、リクルートの場に来ることができなかった父親がいる可能性を考慮する必要があること、結果の一般化には、社会文化的背景を考慮する必要があるため、日本と同様に男性の労働時間が長い国や地域でのさらなる検討が必要であることなどが挙げられる。

結論：

本研究の結果から、長時間労働による時間的な制約の大きさは、父親の育児行動を不活発にする大きな要因であることが示唆された。長時間労働の是正は、父親の育児行動を活性化させる上で有効な介入の 1 つとなりうると考えられた。